

## 富山湾にも 流れ込んでいる プラスチックごみ

海に流れ込むプラスチックごみが問題になっているのは、富山の海も例外ではありません。2020年10月22日、県内で最も漂着ごみが多い「六渡寺海岸（射水市）」がある六渡寺自治会の取組みについて学ぶ環境学習会を開催し、自治会長の境 信誓さんからお話を聞きました。

平成22年に行われた調査によると六渡寺海岸のごみの量は100㎡あたり2.50㎡。県内ではとび抜けて汚れていることが分かったそうです。この現状を受け、六渡寺自治会では「泳げる海岸を取り戻そう!」をスローガンに、平成23年から清掃活動を行っています。



## 六渡寺海岸の特徴

小矢部川と庄川の河口に挟まれた狭い海岸

南西方向の風がいつも吹いている

浜辺近くに西方向への海流がある

離岸堤が設置され、ごみがひっかかりやすい

## 清掃活動と同時に、 流れ着くごみについて調査

富山県は東から西に向けて低くなっているため、庄川から小矢部川に向かって流れる水とともに多くのごみが小矢部川へと流れ込みます。六渡寺海岸へ流れ着くごみの90%以上は小矢部川から流れてくるごみ。2019年度に六渡寺で処理したごみは76トンにもおよびますが、境さんのお話によると流れ着いているごみはごくわずか。残りのほとんどは海へ流れていくのが目で見え、また、調査によってもそのことが分かったそうです。



六渡寺海岸で見つけたごみ。ペットボトルや苗木ボトルなど、身近に見かけるものばかり。

## 六渡寺自治会の取組みは「地域・行政と一緒に」

富山湾、小矢部川へのごみの流入を防ぐためには、上流地域全体での取組みが必要です。そのため六渡寺自治会の取組みは、行政や他団体と「一緒に」進めることも大切なスローガン。

南砺市や小矢部市などの学校、婦人会、各団体の皆さんが六渡寺海岸の清掃に参加してくれるようになったほか、県内企業が主催する海岸クリーンキャンペーンで多くの人が六渡寺海岸の清掃を行いました。

また、小矢部川流域の自治会や企業が集まった「小矢部川サミット」が開催され、流域のごみについての調査をまとめた「小矢部川流域のごみマップ」もつくられ、地域全体でこの問題について考える動きが広がっています。

「六渡寺に流れ着くごみは海へ流れ出るごみの0.1～0.01%。とにかくたくさんのごみが海へ流れ出ている。特にプラスチックは分解されるまでに300年かかると言われている。自分がゴミを捨てたあと、どこへ行くのか、どうなるのかを考え、あとの人のことを考える行動をとってほしい」



お話を聞いたあと、海岸へ移動しごみ拾い。数日前に清掃されたあとだったそうですが、15分ほどでこれだけ集まりました。家庭ごみやビーズ状肥料のプラスチックコーティングの残骸まで、わたしたちのくらしから出るごみの多様さと量に驚きました。